

事業所名 グループホーム愛の郷 笠岡
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 1月11日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 生活指導員
資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士2級、社会福祉士、訪問介護員
B: 現職 元介護療養型病棟看護師
資格・経験 看護師(8年)、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

笠岡市西部、郊外の住宅地にあり、国道2号線が直ぐ近くを通り、バス停もある。国道より遥かに瀬戸内海が望める、生活環境の良いロケーションである。

敷地は広く、大きな裏庭は菜園となり様々な野菜が育てられ、食卓にものぼっている。菜園での作業は入居者の生活を和ませ、「表情も良くなった。」という家族の意見もある。

看護師・栄養士・音楽療法士と介護に関する専門職があり、ホームでの日常生活を快適で豊かなものに行っている。中でも音楽セラピーは、認知症緩和に大きく貢献している。

ホーム誌「愛の郷便り」を発行し、家族に様子をお知らせすると同時に、関係行政機関・医療関係に届けて情報提供をし、地域に広く啓発している。

母体法人の運営するグループホームは全て2ユニットになっており、2ユニットの利点・特長をよく研究して各々の特性を生かし、入居者の個性に配慮した細かな家庭的な介護を行っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

運営理念に環境整備を掲げ、ホーム環境は配慮が行き届いている。入居者に対する個々の支援・対応で、服薬・食事支援等について細かくで緻密な心配りを行えば、より高齢者認知症介護の模範となるホーム運営が期待できるものと思われる。

I 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてみがしているものは何か(記述) 今までの生活・経験を尊重し、一人ひとりの意思・ペースを大切に個別対応を重視して、その人らしい生きがいのある生活の維持継続が出来ることを目指している。 残存機能を生かし、記憶に残っているところを引き出して、出来る事への見守り・支援等を職員も共に楽しみながら自立支援を目指す。 音楽セラピーにも力を入れ、ボランティアによるミニコンサートを開いている。職員の中に音楽療法士もあり、認知症緩和に向けて新しい取り組みを実践している。 | | |

II 生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が暮らしていて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) 入居者が過ごしたい場所でゆったりとでき、共有空間に自分の居場所が持てるように心がけている。 職員と協力して作った季節の感じられる雰囲気づくり(吊るし柿やクリスマスツリーなど)をして、生活に安定をもたらししている。 家族へ「愛の郷便り」などを送り、面会時にも出来事やエピソードを話して入居者と家族との繋がりを深めるようにして、心の落ち着きに取り組んでいる。 | | |

III ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人でできることへの配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |

III ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にした整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物の支援 | | |
| 23 | 認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) 入居者の生活歴・生活環境をよく把握し、その人らしい日常が過ごせるようにし、本人の出来ること、したい事を見出して、その人の意思や行動に合わせた支援をするようにしている。 入室時にはノックをして、しばらく待って許可を確認して入るようにしている。「親しき仲にも礼儀あり」と、人生の先輩として敬い、言葉づかいは特に気をつけている。 個人情報と事務室で保管され、管理の徹底を心がけている。入居者個人に関することは、家族に了解を得た上で最小限をホーム誌等に載せるようにしている。 | | |

IV 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 33 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 34 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 35 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) 個人個人に生活記録表を作り、一ヶ月の生活・体調変化が一目で分かるようにして、職員全員が状況を直ちに把握できるようにし、チームケアにあたっている。 外部研修に積極的に出席して内部研修を充実し、共に課題を研究・共有して介護内容の充実と研鑽・努力している。 「気付きノート」を用い、潜在的な問題の発見に努めている。問題・ヒヤリハット発生時には、直ちに会議を開き、内容を分析、検討して再発防止に繋げている。また、記録に残し、全員で共有し徹底している。 | | |